

## 福智町の 絶滅危惧種

多種多様な植物が町内に自生していますが、環境変化や心ない乱獲で、少しずつ姿を消しています。ここでは、国や県のレッドデータに掲載されながらも町内に生育する植物の中から、希少な5種類をご紹介します。

【ラン科】

### ハツシマラン

国 ▶ 絶滅危惧ⅠA類 / 県 ▶ 絶滅危惧ⅠA類

夏緑樹林帯で生える、高さ5～10cm程度の小さな地生蘭。葉は、4～5枚が互生する。花期は7月。花順は直立し、淡紅紫色の花を数個、やや偏ってつける。

【ナス科】

### ヤマホオズキ

国 ▶ 絶滅危惧ⅠB類 / 県 ▶ 絶滅危惧ⅠA類

林道沿いなどのやや明るい場所に生えるごくまれな多年草。ただし、その場所に毎年生えるとは限らない。花期は6～7月。花は葉腋に1～2個下垂する。

【イラクサ科】

### ミヤコミズ

国 ▶ 絶滅危惧Ⅱ類 / 県 ▶ 絶滅危惧Ⅱ類

石灰岩地の岩上に生育する、分布の限られた好石灰植物。茎は高さが10～20cmで、時に40cmにも達する。岩の壁面に生えているものは、下垂している。

【スマレ科】

### シヨクスミレ

県 ▶ 絶滅危惧Ⅱ類

夏緑樹林帯の標高800～1100mの林下に生え、県内では福智山地や英彦山地のほか釈迦ヶ岳山地に分布が限られている白色のスマレ。花期は4月中旬から下旬。

【アカネ科】

### イナモリソウ

県 ▶ 絶滅危惧Ⅱ類

照葉樹林帯上部から夏緑樹林にかけての林下のやや開けた場所にまれに見られる多年草。花期は5～6月。葉腋ごとに1個、または枝先に1-2個つき、紅紫色で美しい。



# 櫻の聲

こえ

県内唯一かつ全国的に珍しいエドヒガンの群生に胸が高鳴る一方、自然環境の変化によってその多くの生存が危ぶまれています。同様に、町内に生育する絶滅危惧種などの希少な植物も姿を消しつつある福智町。現状を町内の植物研究の第一人者である熊谷信孝さんにお話しを伺いました。

「人の手で無くなることがあるなら、人の手で守ることもできるはず」

## 探求心で発見された43の桜 多くは劣悪な環境下で生育

「まさか、この町にエドヒガンがあるとは…あの瞬間の驚きと喜びは今でも忘れません」と笑顔を向けた町文化財専門委員の熊谷信孝さん。虎尾桜を再発見した後、福智町の植物研究の第一人者として、約32年の歳月をかけ、町内に分布する43本のエドヒガンの調査を行ってきました。「もともと希少なエドヒガン。密集して群生していることは、福岡県だけでなく、全国的にも珍しい」と目を細める一方、「その多くは劣悪な環境下に置かれ、枯れかけている木もある」と熊谷さんは、エドヒガンの生存に警鐘を鳴らしています。

## 大切な福智の宝を失う前に 目を向け守り次世代へ

絶滅に瀕した動植物を世界、国、県のレベルで取り上げ、絶滅の危険度順に「絶滅危惧ⅠA類」「絶滅危惧ⅠB類」「絶滅危惧Ⅱ類」「準絶滅危惧」とランク分けした「レッドデータブック」。福智山を有する自然豊かな福智町には、国のデータとして上がっている18種類、福岡県のデータでは27種類の植物が生育しています。「遠目には気付かないが、植物は町から姿を消す一方…環境の改変や盗掘など、人の手で自然が脅かされている」と嘆く熊谷さん。町内のエドヒガンも地球温暖化の影響で生育が妨げられ、生存の危機にあるといいます。「何もしなければ、早くも10年以内に枯死が始まる。失った自然を取り戻すのは難しいが、今あるものを守ることはできる。まずは自然に関心をもってもらい、その後につなげてほしい」と力を込めて熊谷さんは訴えます。社会が豊かになる一方で置き去りにされがちな「自然」こそ、福智の宝。その宝に目を向け、保護し、次の世代に引き継いでいく。それこそが今、この町で暮らす私たちに託された責務なのではないでしょうか。

### 福智町文化財専門委員 熊谷 信孝 さん

上野在住。岡山大学理学部生物学科卒業後、地元で高校で教鞭を執る傍ら、植物研究者として植物地理分類学会会員、福岡県環境教育アドバイザーなどを歴任。平成9年には福岡県教育文化功労者表彰を受けた。

